



カラフルなちょうちんで彩られた「ニシタチ」。「昼間のちょうちんもかわいいね」と二人。

「若者が来たいと思える店が多いことに驚きました。横浜の大学に通っていて、周りから宮崎を宮城と間違われたりしますが(笑)。魅力的な場所があることを私も発信したいと思います」(図師さん)



創業はなんと1935年の「かい帽子店」。若草通のこの地で85年間まちの変化を見てきた。



創業当時の写真。二人の男性が立っているほうが、現在の若草通側。



大きな窓が特徴的なパスタの店「ガマの森」へ。写真をインスタにアップするのかな？



手作り果実酢を使った特製ドリンク(左)も。



あみーろーどを歩きながら「カフェとか、おしゃれなお店が増えたよね」と二人。

ニシタチ



一番街

若草通

広島通り

あみーろーど



「高校時代ミスドに行くとき必ず誰かに会った(笑)」という二人。一番街にはその他、「ゲームセンターにプリクラを撮りに来ている」と懐かしそう。



香港発のもちもちワッフル「バブルワッフル」専門店、「PEACE3」。まち歩きにスイーツはいかが？



突如現れる緑に覆われた店は「日向路工芸店」。店主の母が植えた木が開店50年でこんなに大きく。広島通りは他に青果店や食品店、タピオカドリンクの店なども。



店内には陶器や木工作品、手ぬぐいなども。「この器、かわいいね」と二人。

アミュプラザみやざきやま館

アミュプラザみやざきうみ館

「京都の大学に通っているもので、今までこのあたりをちゃんと見て回ったことがなく、新しい店ばかりで楽しかったです。10月はちょうど街歩きによい季節。また遊びに来たいです」(手塚さん)



アミュプラザを背にあみーろーどから始まる各商店街へ。



働きがいも 経済成長も  
変化する商店街が地域経済を活性化  
個性豊かな店がまちを形づくる



路地にも小さな個性的な店がたくさん。

中心市街地の活性化を目指す商店街と大型店で構成された「Doまんなかモール」広報の坂本桃子さんによると、一時は空き店舗が多かった各通りも、今は新規出店が増え、物件が不足気味なほど。「個性豊かな店主が多いことが特徴で、エスニック料理店、古着店の多いエリアなどが自然に形成され、相乗効果が生まれている」とのこと。小さな店でも自分らしい店づくりをすることで『働きがい』と『着実な経営』の両立が実現できているようです。



持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals = SDGs) とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。宮崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています